

資源循環型施設建設に関する説明会（圏域全体 10.5）【概要】

日時：令和2年10月5日（月）
午後7時から午後8時38分
場所：サントミュージゼ 大ホール

○出席者

- ・ 上田地域圏域住民 36人
- ・ その他地域住民 7人

- ・ 行政側 土屋広域連合長、井上上田市副市長ほか関係職員 計14人

- ・ 報道機関 信濃毎日新聞、上田ケーブルビジョン、信州民報
 東信ジャーナル、行政チャンネル 5社

○説明会の内容

あいさつ、出席者の紹介、資源循環型施設建設についての説明、質疑応答

○主な質問・意見内容

□（発言）

- ・ 100年、1000年に一度の水害に備える施設との説明だが、水害のない場所を候補地とすることはできないのか。
- ・ 被災した場合、その周辺一帯がダメージを受ける。土砂の堆積や道路の破損により、ごみの搬入ができなくなるのではないかと。また、渋滞などにより、周辺の人たちの迷惑となるのではないかと。

■（回答）（佐藤室長）

- 必要な面積や形状が確保できる場所、一定程度幹線道路に接する場所、地下水の確保など、いくつかの要件を考える中で清浄園用地を選定してきた。
- 水害対策として、造成高を上げる、重要設備を高い位置にするなどの対策を検討している。
- 清浄園周辺は国道バイパスなどの幹線道路に近く、被災時の復旧は比較的早い地域であると考えられる。
- 災害廃棄物の仮置き場をいくつか事前に想定し、対応していくことが重要で、周辺の皆さんにご迷惑をおかけすることの無いよう検討していく。

□（発言）

- ・ 資源循環型施設建設にあたっての予算規模とスケジュール、その財源について、回答をお願いしたい。
- ・ 建設候補地について、他の候補地からこの候補地に絞り込んだ検討経過を教えてください。
- ・ 清浄園のし尿処理について、その代替機能はどうなるのか。

■（回答）（佐藤室長）

- 予算規模は、一概には言えないところであるが、数十億～百億程度を見込んでいる。
- 財源については、環境省の循環型社会形成推進交付金の利用と起債の借入れを考えている。
- スケジュールについては、環境影響評価の手続きにおよそ4年、その後の設計や事業者選定、工事等を含めると、最低でも7年～8年掛かる見込み。
- 旧東部町の上川原工業団地以外に神の倉工業団地、東山地区自然運動公園隣接山林、公募による8地区が候補となったが、当初の利用目的にそぐわない点や民有地の取得が困難であったこと等により断念した経過がある。清浄園用地については、公共用地のため土地所有者の同意が得られることから選定した。
- し尿処理は広域連合構成市町村ごとに処理する方針を決めており、現在清浄園を使用しているのは上田市のみ。上田市では下条地区にある下水道施設「南部終末処理場」内に新施設を建設し、前処理を行った後に下水道と一緒に処理する計画である。これについては、地元自治会との合意に向けた最終的な局面にある。

□（発言）

- ・ 3つの処理場を1つに統合することで、広域のごみが1か所に集約されるため、収集車が集中してしまうのではないか。
- ・ 少子化、分別の徹底によりごみは減る一方なのに、こんなに大きな施設で良いのか。広域のごみが集まることで、地元の負担も大きい。地元の身になって計画し、合意を得てから環境影響評価を始めるべき。

■（回答）（佐藤室長）

- 国が平成9年にガイドラインを策定しており、施設を統合することで、ごみ質の均一化により安定焼却ができることなどから、ダイオキシン類などの有害物質の発生抑制につながるという観点から広域化が進められている。
- 3Rの取組により、ごみの減量化をすることが何よりも大事と考えている。これにより収集車の台数も減る。

■（回答）（土屋連合長）

- 計画を進めるには環境影響評価による科学的データが必要。
- 環境影響評価と並行して、まちづくり等についても地元の皆さんと考えていく。ごみは集積所に出して終わりではなく、運ぶ人、処理する人や場所、施設周辺地域の皆さんのことも考え、気持ちを寄せ合うことが大切。

□（発言）

- ・ 千曲川や新幹線、しなの鉄道に挟まれており、交通の便は良くないと感じる。候補地について、有識者からのお墨付きがあったのか。

■（回答）（佐藤室長）

- 清浄園用地周辺は国道バイパス等の幹線道路が整備されており、収集車の交通の便が悪い場所ではないと考えている。
- 候補地については、様々な要件を検討する中で広域連合として適地と判断し選定した。

□（発言）

- ・ 清浄園用地が適地というが、危険水域内にあって、本当に適地なのか。
- ・ 千曲川を補強しても千曲川の水位が上がれば、矢出沢川等の支川の水位が上がり氾濫するのではないか。

■（回答）（土屋連合長）

- 清浄園周辺は、昭和 25 年まではしっかりとした堤防が無かったため、氾濫した時期があった。昭和 40 年代に矢出沢川が入ってくる鴨池堤防にルートを変えるような堤防を造ってある。その下流も昭和 40 年代頃から完成堤防となっている。かつてとは状況が違ふことも含めて判断したものであり、その上で必要な対策を講じていきたいと考えている。

□（発言）

- ・ ごみの減量化施策について、女性の意見は反映されているのか。他市町村の施策や民間の取組を参考にしているのか。
- ・ 生ごみの堆肥化がごみ減量の主な施策になっているが、パッキンの普及率がどれくらいで、効果はあるのか。ごみ減量化の主な施策についてももう少し具体的に説明してもらいたい。

■（回答）（北島室長）

- 東御市の取組については、担当者からヒアリングを行うなど、参考にしている。
- 上田市の廃棄物処理審議会や生ごみリサイクル研究委員会には女性も委員として参画していただき、御意見をいただいている。
- ぱっくんについては、近年、600 件程度の実績があるが、電気式の乾燥器とは異なり、水切り等の手間と知識が必要になるため、ボランティア団体の方が使い方等の説明を丁寧に行い、普及の後押しを行っている。

□（発言）

- ・ 施設から出る熱エネルギーの有効利用について、将来の人口減少や高齢化社会を見据え、上田市の目玉となるような、地域の方にメリットのある施設整備等を検討したらどうか。

■（回答）（土屋連合長）

- 環境影響評価と並行し、地元の皆さんと振興策や周辺の施設整備、熱エネルギーの利用についても協議をしていく。

○まとめ

□（土屋連合長）

- ・ 本日は様々な意見や要望等をいただいたが、しっかりと受け止め、今後の対応に活かしていく。
- ・ これから環境影響評価を実施させていただくが、これが施設建設の同意ということではない。
- ・ 資源循環型施設は広域連合及び上田市の最優先課題として曲げることなく、覚悟を持って取り組んでいく。
- ・ 資源循環型施設を考えていくためには、建設候補地周辺の皆様と行政だけでなく、上田地域の住民全体の課題として、一人一人が取り組んでいくことが大切で、地球温暖化防止、環境負荷の少ないコンパクトな施設を実現するために、ごみの減量について、是非ともお一人お一人が行動に移していただきたい。
- ・ 今後も広域連合では、資源循環型施設について、住民の皆様に広く情報発信を行い、自分たちの課題として考えていただくための機会を設けていく。
- ・ 施設の安全・安心はもちろんのこと、地域価値の向上につながるような振興策を真剣に取り組んでいく。